

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 9月 日

【評価実施概要】

	770403418
法人名	
事業所名	グループホーム ことほぎ庵
所在地	福島県いわき市常磐西郷町岩崎29番地の1 (電 話) 0246 - 72 - 0730

評価機関名	NPO法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町竹の花20
訪問調査日	平成 20年 9月 26日

【情報提供票より】(20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	9人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建て, 2階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) ■ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ■ 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 500 円	昼食 500 円	
	夕食 500 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,500 円	

(4) 利用者の概要(9月1日)

利用者人数	12名	男性	2名	女性	10名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低 75歳	最高 89歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かとう内科クリニック・あきもと歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に溶け込むように建てられた清潔感あふれるホームには、1ユニット6人の家族規模の入居者数で、独自の理念である「ゆとりある生活・笑顔のある生活・自然体の生活」を基盤としている。日々訓練された専門分野のスタッフによる支援は心穏やかにのんびりと安定感ある日常の中には、家族の絆にも似た心の交流が感じられるようであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価をスタッフ全員真摯に受け止め今後の解決策に向けて検討しあっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 実践内容を具体的に計画することで評価の必要性を十分理解し取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 近隣、各機関の関係者にも恵まれ、縦、横のつながりの取り組み支援は、確実に実践されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族のよりよい意見を逃さないためにも家族会や家族アンケートを取り入れ今後の運営の反映につなげていく。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営者の自宅が隣接しているため近隣、自治会との協力が得られ恵まれた境遇の中、ホーム側も積極的に参加交流している。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目



外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自のシンプルな理念の中に地域の方々との交流を大切にゆとりある暮らしを支援したいという願望が反映されていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	要所にさり気なく掲示されている理念は、日々の支援において共有できるよう努めていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者の自宅が隣接しているため自治会の行事を積極的に参加すると共に声かけにも努めていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を真摯に受け止めスタッフ全員で確認し改善対策にあたっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、施設内で利用者及び家族、包括支援センター、自治会、スタッフなど各機関の担当者と今後の計画内容を報告し評価を仰いでいる。また、会議内容を把握するためにもスタッフは可能な限り全員参加を促している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
/////////					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時や、遠方の方は電話連絡で報告し理解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在までに苦情はないが、今後金銭面などを含めた苦情申し立てが発生した場合は、運営状況の把握をより理解してもらえるよう日ごろから密に接していけるよう努めていく。	○	家族の意見、要望の反映のために言い出しやすい雰囲気作りに心がけ、家族アンケートや家族会などを定期的に行っていく。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が出ても最小限のダメージに努め、介護職の新人育成も考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験に応じた研修や勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会や福島県認知症連絡協議会に加入し、同業者同士の研修や勉強会を通して交流を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人ひとりの生活暦を十分把握し、共に支えあう関係作りを気づいている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのアセスメントを基に本人本意の生活意向を可能な限り取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の要望を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族、関係者との担当者会議を行うことで現状に適した介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	本人に適切な医療が受けられるよう医療連携が確立し ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	具体的文章によって、終末期及び看取りの意向を聴き 取り共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	個人情報取り扱い注意事項の同意書を取りプライバ シー保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	本人本意にそった生活リズムを大切に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意志で食事の下ごしらえや配膳、下膳の準備ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在のところ時間帯の希望者はおらず、職員の安全判断のもと行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの要望を取り入れた自由な余暇の配分に支援されていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム敷地内の畑に行ったり町内を散歩したり、日々の外出支援に努めていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊が激しい場合を除いては、日中は鍵をかけない支援と心配りがされていた。また、階段に通じるドアに危険防止と見守りのための耳障りでない音を奏でる物品の工夫がされていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2～3回の消防署を交えた避難訓練のほかに、月1回のホーム独自の訓練をすることで利用者の行動状況の把握に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士指導のもと、バランスの取れたメニューを提供し個々の摂取量や水分量が見やすく掲示されていた。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースには、生活感や季節感が感じられる必要最小限のオブジェが清潔感を漂わせていた。また、住宅街の心地よい生活音を聞くことで想像を膨らませられるように必要以上のテレビ音やカラオケ音は制限されているなど落ち着ける配慮を工夫していた。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には馴染みの筆筒や仏壇などの生活用品が持参されており好みに合わせた配置になっていた。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームことほぎ庵

記入担当者名 古川 一広

評価結果に対する事業所の意見

アドバイスいただいた新聞等を活用して、ご家族にも更にことほぎ庵のことを知って頂き、話しやすい環境づくりに努めていきたいと思っております。

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。